

Illustrator で絵型を描く。

ブラシの活用方法

illustrator のブラシパネルを活用することで
様々なパーツを簡単且つ正確に描くことが可能になる。

アートブラシとパターンブラシ

パターンブラシとアートブラシの違いは一つのパターンを
繰り返して生成される事が都合の良いモチーフは
パターンブラシに入れ、一つのパターンが伸縮しても良いモチーフは
アートブラシに入れると良い。

パターンブラシの場合の メリットとデメリット

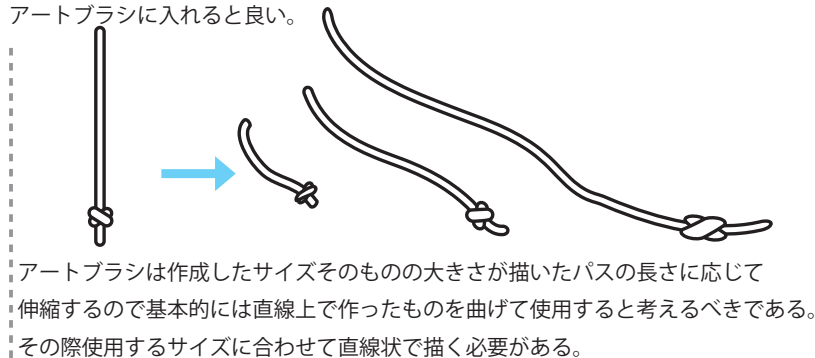


左右をキッチリ繋がる様に作成しなければならないが
上手く作れば最小のパターンで連続のモチーフを描ける。

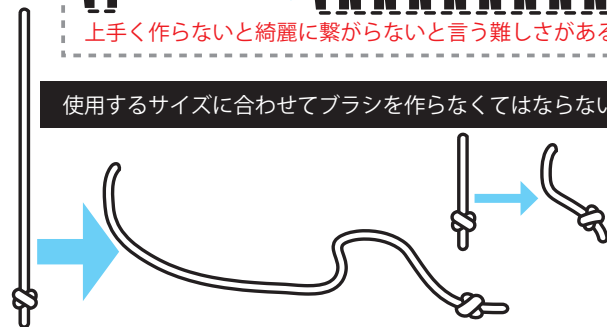


上手く作らないと綺麗に繋がらないと言う難しさがある。

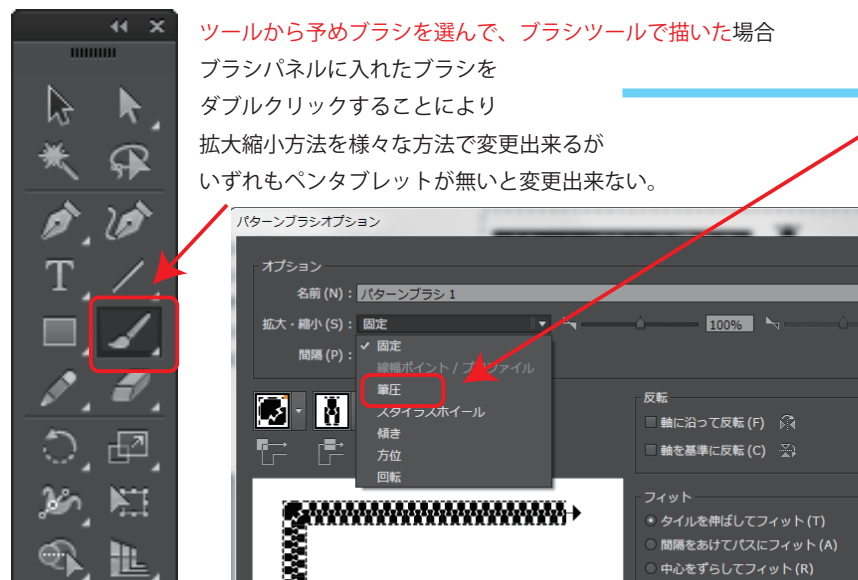
使用するサイズに合わせてブラシを作らなくてはならない！



アートブラシは作成したサイズそのものの大きさが描いたパスの長さに応じて
伸縮するので基本的には直線上で作ったものを曲げて使用すると考えるべきである。
その際使用するサイズに合わせて直線状で描く必要がある。

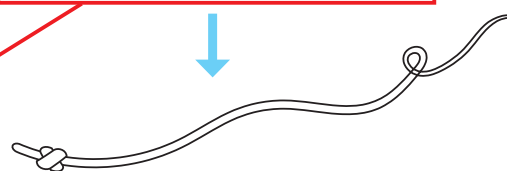


アートブラシ・パターンブラシのその他のオプション



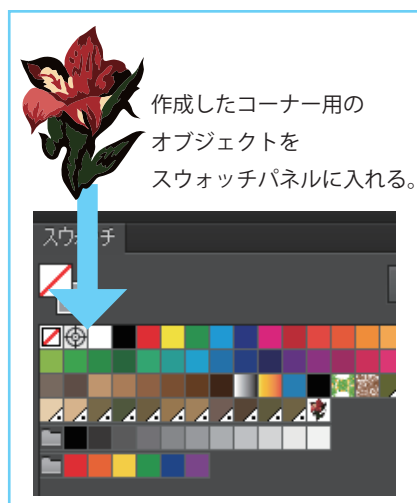
ツールから予めブラシを選んで、ブラシツールで描いた場合
ブラシパネルに入れたブラシを
ダブルクリックすることにより
拡大縮小方法を様々な方法で変更出来るが
いずれもペンタブレットが無いと変更出来ない。

筆圧に設定すればペンタブレットの
筆圧に応じてブラシの太さに強弱がつく。



ブラシパネルからコーナを変更出来る。

予めコーナーのオブジェクトを作成して
スウォッチパネルに入れておけば
パターンブラシを作成する際コーナーの形状を
スウォッチパネルに入れたオブジェクトに
変更することが可能である。



作成したコーナー用の
オブジェクトを
スウォッチパネルに入れる。

スウォッチパネルに入れたオブジェクトが
パターンブラシのコーナーを変更する際に
選択することが出来るようになる。

コーナーを別のモチーフで描くことが可能となる。
この様にパターンブラシは細かい設定が可能だが、
コーナー迄変更する様な事は極めて稀である！！

